

R6 実務経験のある教員等による授業科目

学 部	人 間 学 部
学 科	人 間 文 化 学 科

N o	科目区分	授業科目名称	単位	担当教員
1	基本教育	情報活用法Ⅰ	2	恵原 貴志
2	基本教育	情報活用法Ⅱ	2	恵原 貴志
3	基本教育	キャリア設計	2	稲葉 健太郎
4	基本教育	キャリア開発	2	稲葉 健太郎
5	基本教育	キャリア研究	2	稲葉 健太郎
6	基本教育	地域と政策	2	横江 信一
7	基本教育	いしのまき学	2	遠藤 郁子
8	専門教育	人間環境学	2	恵原 貴志
9	専門教育	教育総合英語Ⅱ	2	根本 泉
10	専門教育	小学校の外国語活動	2	根本 泉
11	専門教育	社会とくらしの安全学	2	恵原 貴志

単位数合計	22
-------	----

科目名	情報活用法 I
職名／担当教員	人間学部 教授 恵原 貴志
曜日／時限	火曜日 2時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 大学生活においては、レポートや論文の作成をはじめ、コンピュータ／ネットワークを用いて主体的に情報を活用する能力を身につけなければならない。この授業では、高校での教科「情報」を踏まえて、ワードプロセッサやWebブラウザ、電子メール等を使って情報活用能力とコミュニケーション能力を養うこと、また同時に情報モラルについて実践的に学ぶことを目標とする。授業は演習形式で行う。本講義は、情報活用の方法と態度を学ぶ第一歩としての、大切な講義として位置付けられている。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:－ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> テーマ:メールによるコミュニケーションの方法、情報の検索と収集、日本語作文技術、文書作成の方法、プレゼンテーション資料作成の方法、情報モラルの習得 到達目標:電子メール、Web検索、ワープロソフト、プレゼンテーションソフト等を活用できる能力、および情報モラルを身につけることである。 <授業形態> パワーポイントと配布印刷物を用いてソフトウェアの使用方法を説明したのち、各自の端末を用いて実習を行う。 <授業計画> 【対面科目】 (1) 本学の情報システムの利用法:ログイン／ログアウト、Windowsの利用法 (2) 本学での電子メールの使い方 ポータルへのログインとメールの送信 (3) コンピュータ演習室のプリンタの使用法 (4) ワードプロソフトを用いた文書の作成 (1)文書をキーボードで入力する、ファイルを保存する (5) ワードプロソフトを用いた文書の作成 (2)文書の印刷、PDFファイルの作成 (6) ワードプロソフトを用いた文書の作成 (3)文書のページレイアウトの作成と調整 (7) ワードプロソフトを用いた文書の作成 (4)段組み、図の挿入を用いた文書の作成 (8) ワードプロソフトを用いた文書の作成 (5)縦書きの文書の作成と段組みの方法について (9) 調査学習:情報セキュリティに関連する問題の具体例を検索し文章化する (10) 調査学習:情報セキュリティに関連する問題の具体例を検索、文章化し、印刷する (11) プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成 (1)基本となるスライドの作成 (12) プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成 (2)スライドのデザインを考える (13) プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成 (3)スライドの表現力を高める (14) プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成 (4)プレゼンテーションの作成と印刷 (15) プレゼンテーションソフトウェアの操作 <アクティブラーニングの取入れ状況> この科目は演習科目であるので、すべての回がアクティブラーニングに対応している。 <課題に対するフィードバック方法> 課題を回収後、多くの学生に共通の問題部分について解説を行う。
--

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書:「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版」、技術評論社 参考書等 : 必要に応じて講義プリントを配付する。
--

成績評価方法・基準

レポートの内容(60%)と受講時の実習に取り組む態度(40%)の総合評価により成績評価を行う。課題を数回与え、レポートを印刷あるいは添付ファイル形式で提出する。評価基準としては到達目標の達成度を重視する。レポートは提出期限を守ること。提出期限も評価対象である。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習> 事前学習 : 教科書を事前に熟読し、次回の学習内容を理解しておく。可能であればコンピュータを用いて予習する。(2時間) 事後学習 : 授業で習得した知識を、コンピュータを操作し復習する。(2時間) <他科目との関連> 「情報活用法I」は、「情報活用法II」と並立する科目である。この両科目を履修し、情報活用能力を身につけておくと、他科目でのレポート作成や情報検索、プレゼンテーション等の情報活用に生かすことができる。「情報活用法II」は学科によっては選択科目であるが、履修することが望まれる。

担当教員へのアクセス

研究室: 1号館3階1301研究室
メールアドレス: ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

講義内容に関する質問、アプリケーションソフトの使い方に関する質問と回答は、コンピュータ室での演習の場で行う。

(実務経験のある教員による授業)

企業内で研究開発時の各種文書作成、情報活用の実務経験を活かし、大学での学習、研究における情報の活用法の観点から講義を行う。

科目名	情報活用法Ⅱ
職名／担当教員	人間学部 教授 恵原 貴志
曜日／時限	水曜日 5時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

＜授業概要＞ 大学生活においては、レポートや論文の作成をはじめ、コンピュータ／ネットワークを用いて主体的に情報を活用する能力を身につけなければならない。この授業では、前期の講義である「情報活用法Ⅰ」を踏まえて、データ分析などの情報活用能力とコミュニケーション能力を養うこと、また同時に情報倫理について実践的に学ぶことを目標とする。授業は演習形式で行う。本講義は、情報活用の方法と態度を学ぶ講義として位置付けられている。 ＜DPとの関連＞ ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:－ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] ＜到達目標＞ ビッグデータやAIによって駆動される現代の情報化社会の変化について理解し、基礎的な情報処理・データ分析能力・情報倫理を身に付けることができる。表計算ソフトを用いてデータ分析を行うことができる。 ＜授業形態＞ パワーポイントと配布印刷物を用いてソフトウェアの使用方法を説明したのち、各自の端末を用いて実習を行う。 ＜授業計画＞ 【対面科目】 (1) 本学のPCを使つてのMicrosoft365の利用法、オンライン授業受講のスキル、情報倫理 (2) 社会におけるデータ・AI利活用: 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用のための技術 (3) 社会におけるデータ・AI利活用とデータ・AI利活用における留意事項: データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向、データ・AI利活用における留意事項、データを守るうえでの留意事項 (4) 表計算ソフト1: データ入力、計算式の設定、表の整形 (5) 表計算ソフト2: データの集計と比較: 合計、代表値(平均値、中央値)条件をそろえた比較、数値処理の前後での比較 (6) 表計算ソフト3: データの抽出、並べ替え、順位(オートフィルタなど) (7) 表計算ソフト4: グラフによる可視化(棒グラフ、散布図、折れ線グラフ、ヒートマップ)・不適切なグラフ (8) 外部からの統計データの取得、表形式のデータ(csvなど) (9) 統計データ1: 平均、中央値、分散、標準偏差、偏差値、データの分布、度数分布表、ヒストグラム、最頻値 (10) 統計データ2: 散布図、相関関係、相関係数行列(散布図行列)、相関と因果 (11) データ分析: データの種類(質的変数、量的変数)、時系列データ、データのクリーニング (12) データ分析: 標準偏差、単純集計、ピボットテーブルによるクロス集計 (13) データ分析: ヒストグラムの作成、2次元集計データの可視化、時系列データの可視化 (14) データ分析: 集計結果の報告書の作成 (15) まとめ ＜アクティブラーニングの取入れ状況＞ この科目は演習科目であるので、すべての回がアクティブラーニングに対応している。 ＜課題に対するフィードバック方法＞ 課題を回収後、多くの学生に共通の問題部分について解説を行う。
--

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞ 教科書: 資料を配布するほか、講義中に指示する。 参考書: 「例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版」、技術評論社 「教養としてのデータサイエンス(データサイエンス入門シリーズ)」, 講談社

成績評価方法・基準

レポートの内容(60%)と受講時の実習に取り組む態度(40%)の総合評価により成績評価を行う。課題を数回与え、レポートを印刷あるいは添付ファイル形式で提出する。評価基準としては到達目標の達成度を重視する。レポートは提出期限を守ること。提出期限も評価対象である。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞ 事前学習 : 教科書を事前に熟読し、次回の学習内容を理解しておく。可能であればコンピュータを用いて予習する。(2時間) 事後学習 : 授業で習得した知識を、コンピュータを操作し復習する。(2時間) ＜他科目との関連＞ 「情報活用法Ⅰ」は、「情報活用法Ⅱ」と並立する科目である。この両科目を履修し、情報活用能力を身につけておくと、他科目でのレポート作成や情報検索、プレゼンテーション等の情報活用に生かすことができる。「情報活用法Ⅱ」は学科によっては選択科目であるが、履修することが望まれる。

担当教員へのアクセス

研究室: 1号館3階1301研究室
メールアドレス: ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

本授業は、石巻専修大学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの対象科目である。
この教育プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に申請予定である。

企業内で研究開発時の各種文書作成、情報活用の実務経験を活かし、大学での学習、研究における情報の活用法の観点から講義を行う。(実務経験のある教員による授業)

科目名	キャリア設計
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
曜日／時限	水曜日 2時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 本科目の目標は、自己を知り、社会を知ること、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることにある。具体的には、社会人・職業人として自立していくうえで必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学習をとらして自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を身に付ける。 なお授業は、それぞれのテーマごとに課題解決的な演習や学内外から講師を招いての講義とするが、その学習内容に応じてアクティブラーニングやコミュニケーションスキルアップのための各種トレーニングを取り入れる。 <DPとの関連> 1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆ 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:- 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:- 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] [授業の方法] <授業形態> パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式ですすめる。各クラスに分かれる場合は、グループワークや発表などの演習を行う。なお、外部講師からの講話の後は振り返りシートを書かせ、講義内容の定着を図る。 <授業計画> 【対面科目】 (1)ガイダンス:講義の約束・進め方及び講義内容を確認する。<自己紹介カード> (2)自己理解へのトライ:自己の特性を知り、進路について考える。 (3)大学生活を知ろう:自己理解、高校生と大学生の違いを知る。 (4)大学生生活の目標(座談会):学部代表学生6名からそれぞれの目標を発表してもらう。<振り返りシート1> (5)演習1:振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表し合う。 (6)演習2:ディスカッションを基に、大学生活の目標を設定し、レポートにまとめる。<課題レポート1> (7)社会人に必要な力を知ろう:石巻専修大学OB・OG3名による座談会。<振り返りシート2> (8)演習3:演習の手順についてパワーポイントを用いて説明した後、各クラスに分かれて演習を行う。 (9)演習4:社会人に必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (10)演習5:班ごとに発表し合い、社会人に必要な力をレポートにまとめる。<課題レポート2> (11)キャリアをデザインしていくために必要な力:石巻地域で活躍している3名の鼎談。<振り返りシート3> (12)振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表を行う。 (13)演習6:キャリアをデザインしていくために必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (14)演習7:各班でまとめたものを班ごとに発表し合う。 (15)キャリア設計の講義を振り返り、大学生活をデザインする。<課題レポート3> ※1 演習やアクティブラーニングを取り入れるため、サポート教員を配置する。 ※2 サポート教員は、それぞれのクラスを掌握し、出欠確認やレポートの点検評価、演習等の助言に当たる。 <アクティブラーニング取り入れ状況> 講話等の振り返りでグループワークやグループ発表を適宜取り入れる。 <課題に対するフィードバック方法> 講義ごとに振り返りシートや課題レポートを書かせる。振り返りシートは演習の参考にするため、評価後にできるだけ早く返却する。また、ベストシートやベストレポートを適宜紹介する。
--

教科書／参考書

<教科書>:使用しない。 <参考書等>:講義ごとに資料を配布する。

成績評価方法・基準

<評価方法> 平常の学習状況(20%)、振り返りシートや課題レポート(60%)、演習・発表内容(20%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習> 事前学習:単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料をもとに予習復習を行うこと。特に、レポート課題については、図書館やインターネットを活用し、自分の言葉でまとめるようにすること。(2時間) 事後指導:授業終了後、その内容を振り返り、自分の考えをまとめる。(2時間) <科目の位置づけと他科目との関連> 「キャリア設計」は、キャリア教育の土台になるので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の事業も併せて受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料のみならず、自分で調べた資料を整理してファイルしておくこと。 <オフィスアワー>
--

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

オムニバス形式で多様な企業や本学OB・OG等を講師に招き、実務経験に沿った助言を行っている。

科目名	キャリア開発
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
曜日／時限	金曜日 1時限
期 間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要>

社会人として豊かな職業人生を歩んでいくためには自己理解と社会・職業理解が必須である。また、大学生にとってキャリアとは就職活動のみを指すのではなく、人生そのものについて考え、実践していくものである。よって、在学中または卒業後に豊かなキャリアを歩んでいくために次の事項を中心に授業を構成する。

- ・自己のキャリアを体系的にデザインするためのキャリアに関する諸理論を学ぶ。
- ・就職活動における自己理解と業界・職業分析の必要性と方法を学ぶ。
- ・ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。
- ・具体的な卒業後のキャリアの事例について学ぶ。

前半は主に講義を通してキャリアに関する諸理論や自己理解、業界・職業研究の方法について学ぶ。また、実際に企業が抱えている課題について解決を試みる実習も行う。後半にはゲストスピーカーを招き、企業の現場の話題を提供してもらうとともに、学生に対してどのように考えているのかについて講義をしてもらう。

<DPとの関連>

1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:-
 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:-
 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:-
 [☆:関連するもの、-:関連しないもの]

<到達目標>

- ・自己分析と業界・職業研究をすることができるようになる。
- ・社会人に必要な基礎力とは何かを理解する。
- ・ゲストスピーカーの話聞くことで企業の現場について知ることができる。

[授業の方法]

<授業形態>

講義形式で行う。授業は通年で15回とする。予定表に従って講義に参加してもらうことになる。講義は主に担当教員の他、外部講師やゲストスピーカーが担当することもある。

<授業計画>

【対面科目】

- (1)ガイダンス
- (2)キャリアとは何か・社会人基礎力について
- (3)キャリアを考えるための発想法
- (4)就職活動の両輪
- (5)働き方を知る
- (6)自己分析の実践
- (7)課題解決能力を身につける①
- (8)課題解決能力を身につける②
- (9)課題解決能力を身につける③
- (10)キャリアインタビュー①(ゲストスピーカー)
- (11)キャリアインタビュー②(ゲストスピーカー)
- (12)キャリアインタビュー③(ゲストスピーカー)
- (13)キャリアをデザインする①
- (14)キャリアをデザインする②
- (15)まとめ

<アクティブラーニングの取り入れ状況>

キャリア開発ではグループワークを取り入れている。他者との交流を通して自己理解を深める。また、インターンシップや就職活動、就業後の活動に向けた実践的なワークを実施する。ポスターやPowerPoint等を使用したプレゼンを行うこともある。

<課題に対するフィードバック方法>

講義の振り返り用のレポートを提出し、それについてフィードバックを行う。

教科書／参考書

<教科書・参考書等>

教科書:講義で指定する。
 参考書等:講義で指定する。

成績評価方法・基準

<評価方法>

- (1)試験・テストについて
試験は行わない。
- (2)試験以外の評価方法
レポートによる評価を行う。
- (3)成績の配分・評価基準など
平常の学習状況(20%)、事前学習・事後学習・レポート(80%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習>

事前学習:授業で配布された参考資料をもとに予習復習を行い次の授業の準備をしておくことが望ましい。キャリアインタビューにおいては就職資料室やインターネットを活用し、業界や業種、職種等について知りたいことを調べ質問できるようにしておくことが望ましい。(2時間)

事後学習：自己分析や職業・業界研究を個人で進める。（2時間）

<他科目との関連>

1年次で学習した「キャリア設計」を踏まえ、3年次の「キャリア研究」つながるものである。キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと、また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の行事にも併せて参加、受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

<オフィスアワー>

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

キャリア教育に関する外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育を行う。

科目名	キャリア研究
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
曜日／時限	木曜日 4時限
期 間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> キャリア教育の仕上げ段階として、実践的なノウハウや実例を中心に各界の専門家によるオムニバス形式の授業である。自分の人生を有意義なものにするために主体的に取り組むこと。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:- ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:- ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] <到達目標> 将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に着ける。 [授業の方法] <授業形態> 進路ガイダンスへの参加及び企業が行う就業体験への参加を以て授業とする。 <授業計画> 【対面科目】 (1)就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法 (2)履歴書・エントリーシート作成講座 (3)自己分析講座 (4)業界・企業・職種研究のノウハウ (5)社会や会社の常識 (6)社会人に必要なビジネスマナー (7)好印象を与える身だしなみ、リクルートファッション (8)一般試験(SPI)対策講座 (9)面接対策講座① 採用面接を受ける心構え (10)面接対策講座② グループディスカッションに備えて (11)企業の採用担当経験者による「来て欲しい人物像」 (12)本学卒業生による業界、職種の事例紹介 (13)就業体験の解説 (14)就業体験 (15)就業体験発表会 上記の授業計画は講師の都合等で順序が前後することがある。また、この他にも授業の一環として就業体験の①受入先との調整、②申込み書類の添削指導、③必要に応じ事前研修、④発表会の準備を行うことがある。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 就業体験として企業や地方自治体等の組織で各種の体験を積んでもらう。 <課題に対するフィードバックの方法> 毎回交替で別な講師が講義するため、各講義における質問等は講義終了後に担当講師が受け付ける。 全体的なスケジュールやテーマの選択に関しては担当教員(就職指導部長)に相談してほしい。

教科書／参考書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。 参考書として、一般的な就職支援書籍(SPI攻略本や社会人マナー)の中から気に入ったものを持っていると就職活動の助けになる。
--

成績評価方法・基準

<評価方法> ・講座形式での平常の学習状況 ・受講後のレポート ・就業体験の内容 ・就業体験発表会でのプレゼン内容 により総合的に評価する。 ただし、就業体験に参加を希望したものの実施先企業等の都合で実現できなかった場合には救済措置を考慮する。

履修上の留意点

<準備学習> ・講座形式の際は特に準備を要しないが、高い意識で望むこと。 ・就業体験の際は事前に就業先について十分に研究して望むこと。 <事後学習> ・講座を受講後にレポートを提出いただく。内容は毎回指示する。 ・就業体験では修了後にプレゼン資料を作り発表いただく。 <科目の位置づけと他科目との関連> ・キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするために主体的に取り組むこと。 ・自分の適性や将来の目標について考える機会であるので、何事も主体的に取り組むことが望まれる。このため、これまで学習した「キャリア設計」「キャリア開発」の内容を復習しておくことが望ましい。 <就業体験> ・就業体験に参加する場合には、しっかりと事前準備し望むこと。
--

- ・就業派遣先での無断欠席や遅刻など迷惑となる行為は厳禁。
- ・就業派遣先や日程の決定は、個別に指導、調整する。
- ・学外での行動は安全に最大限の注意を払うこと。

担当教員へのアクセス

3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)

その他

<オフィスアワー>

相談は随時受け付けます。

(実務経験のある教員による授業)

就業体験の事前事後指導に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育と就業体験を行う。

科目名	いしのまき学
職名／担当教員	人間学部 教授 遠藤 郁子 ／ 人間学部 特任教授 横江 信一
曜日／時限	水曜日 2時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 皆さんが大学生活を送る石巻市は「SDGs未来都市」に選定され、2030年までに持続可能な地域社会を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。この授業では、石巻市とその圏域について知り、ともによりよい地域社会を実現してゆくための課題を発見し、その一員としてできることは何かを思考し、主体的な行動につなげていくための学びの基盤を身につける。 オムニバス形式で実務経験のある複数の外部講師などを招き、石巻圏域の歴史・文化・社会について、さまざまな角度から地域を理解するとともに、学生生活を通じて地域に貢献しながら地域の中で学ぶ方法を実践的に学ぶ。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ☆ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ー [☆: 関連するもの、ー: 関連しないもの] <到達目標> (1)石巻圏の歴史・文化・社会についての基礎知識を身に付け、地域社会の課題について多面的に思考できる。 (2)大学の学びの中で有効に情報ツールを活用し、適切に情報収集・整理・発信することができる。 [授業の方法] <授業形態> 配布プリントやPowerPointなどを用いて、オムニバス講義形式で授業をすすめる。 <講義計画> 【対面科目】 1(4/10) ガイダンスー「分からない」と向き合う 2(4/17) 「誇れる石巻を目指して～石巻に住んで良かったと思えるまちづくり～」 齋藤正美(石巻市長) 3(4/24) 東日本大震災からの大学の取組と地域社会連携 尾形孝輔(石巻専修大学事務課) 4(5/08) 東日本大震災の記憶と教訓の伝承 白須 肇(宮城県復興支援・伝承課) 5(5/15) 石巻と地域メディア 山口紘史(石巻日日新聞社) 6(5/22) 石巻の自然環境 平井和也(石巻・川のビジターセンター) 7(5/29) 石巻の歴史 横江信一(石巻専修大学人間学部) 8(6/05) 石巻市博物館ミュージアム・トーク 佐藤麻南(石巻市博物館) 9(6/12) 石巻で働く 斉藤誠太郎(まちと人と) 10(6/19) 石巻を遊ぶー川開き祭について 毛利広幸(石巻商工会議所) 11(6/26) 石巻の街づくり 木村仁(街づくりまんぼう) 12(7/03) 石巻の行政 未定(石巻市政政策企画課) 13(7/10) 面白がる力が人生を豊かにする 千葉均(ポプラ社) 14(7/17) SDGs未来都市いしのまきの実現に向けて 阿部雄大(石巻市SDGs移住定住推進課) 15(7/24) 総括ー石巻というフィールドでわたしたちができること ※ 第2回(4/17)と第8回(6/5)は、「マルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設)」訪問を予定しています。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> ・グループワークを行う。・リアクションペーパーを使用する。 <課題に対するフィードバック方法> 毎時間の課題や学生からのコメントに対するフィードバックは、講義内やInCampusなどで適宜行う。
--

教科書／参考書

<教科書>なし <参考文献>講義内やInCampusを通じて適宜紹介する。
--

成績評価方法・基準

(1)評価方法 <成績評価方法・基準> (1)試験・テストについて 試験は実施しない。 (2)試験以外の評価方法 期末の課題レポート、および各回後に実施するリアクションペーパー・指定課題への取組を求める。 (3)成績の配分・評価基準等 リアクションペーパー・指定課題(60%)、期末の課題レポート(40%)により総合的に評価する。講義の内容を理解し、的確にまとめ、与えられたテーマについて論じることができているかを基準とする。平常点で評価。

履修上の留意点

事前学習:それぞれの講義テーマについての事前調査を行う。指定課題に取り組む。(120分) 事後学習:講義内容について復習し、講義テーマに関する指定課題に取り組む。(120分)
--

担当教員へのアクセス

遠藤研究室:3号館2階 3216研究室 メールアドレス: endo@isenshu-u.ac.jp 横江研究室:3号館2階 3221研究室

メールアドレス: yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

〈オフィスパワー(遠藤)〉

時間帯:金曜日 13:00~15:00

場所:遠藤研究室(3号館2階 3216研究室)

〈オフィスパワー(横江)〉

時間帯:金曜日 13:00~15:00

場所:横江研究室(3号館2階 3221研究室)

科目名	地域と政策
職名／担当教員	人間学部 特任教授 横江 信一
曜日／時限	火曜日 5時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつ様々な資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた石巻圏域(石巻市、東松島市、女川町)の首長をはじめ自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる地域住民と自治体の連携について理解する。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ー ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ー ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ☆ [☆:関連するもの、ー:関連しないもの] <到達目標> テーマ:地域政策の現状把握と課題追究からまちづくりを展望する。 到達目標:行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方について理解することができる。 [授業の方法] <授業の形態> 配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話(45分程度)を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。 <授業計画> 【対面科目】 (1) 講義の概要説明 (2) 地域政策と地方自治、議会と選挙管理委員会の役割 (3) 地域の現状と政策 (4) 石巻市の施政方針について(石巻市) (5) 地域防災の取組について(石巻市) (6) 石巻市の産業観光政策について(石巻市) (7) 石巻市の地域政策のまとめ (8) 東松島市の施政方針(東松島市) (9) 東松島市のコミュニティ・スクール事業について(東松島市) (10) 産業観光政策の事例(東松島市) (11) 東松島市の地域政策のまとめ (12) 女川町の施政方針(女川町) (13) 産業観光政策の事例(女川町) (14) 安全・安心なまちづくりに関する(女川町) (15) 女川町の地域政策のまとめ <アクティブラーニング取り入れ状況> グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。 <課題に対するフィードバック方法> 基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート(振り返りシート)にまとめ、回収する。小レポート(振り返りシート)の回収後コメントを記入して返却する。

教科書／参考書

<教科書>:使用しない。 <参考書等>:授業で紹介する。

成績評価方法・基準

<評価方法> (1) 試験・テストについて 試験は実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 授業中に小レポート(振り返りシート)を作成する。(全12回) 課題レポートを時間内に行う。(1回) (3) 成績の配分・評価基準等 成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度(60%)、授業中の小レポート(10%)と最終課題レポート(30%)であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した(する)学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習>

事前学習：石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場（各部・各課）の仕事の内容をホームページで調べておくこと。（120分）

事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。（120分）

<他科目との関連>

地域の行政施策を理解する上でいのまき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階3221

メールアドレス：yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。

<オフィスアワー> 相談は随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）

圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	人間環境学
職名／担当教員	人間学部 教授 恵原 貴志
曜日／時限	金曜日 1時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 人間の生活環境は科学の発達とともに変化し、それに伴いいくつかの新しい環境問題が発生している。本講義では、科学の発達に伴って変化した人間の生活環境について検証し、それより発生した問題に対処する方法について学習する。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: - ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: - ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: - [☆:関連するもの、-:関連しないもの] <到達目標> 近年発生している環境問題について理解できる基本的知識を身につけ、自らの判断によって生活環境を選択、改善する能力を身に着ける。 <授業形態> 授業はパワーポイントを用いて行う。 <授業計画> 【対面科目】 (1) 環境問題とは何か (2) 太陽光発電1 太陽光発電パネルの有害材料と希少材料 (3) 太陽光発電2 エネルギーペイバックタイム (4) フィールドワーク 学内の太陽光発電設備の見学 (5) 地球の軌道と季節による気温の変化 (6) 地球温暖化1 夏日、真夏日、猛暑日などの変化 (7) 地球温暖化2 温室効果とは何か (8) 集団調査学習: インターネットを用いた調査、課題は当日伝達 (9) 地球環境を理解するための基礎的な物理の知識 (10) 雲の形成と降雨のメカニズム (11) 飽和水蒸気圧と露点 (12) 高気圧、低気圧と台風 (13) 酸性雨1 酸性雨の原因と原因物質 (14) 酸性雨2 各国における酸性雨の現状 (15) 授業内テストおよび総括 <アクティブラーニングの取入れ状況> 第4回のフィールドワークと、第8回の集団調査学習がアクティブラーニングに対応 <課題に対するフィードバック> 集団調査学習に当たっては、最初に疑問点を明確にしてから調査を行い、全員が納得できる結果が得られるまで調査を行う。
--

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書は特に用いない 参考書:「人間・環境・安全 ーくらしの安全科学ー」 及川紀久雄、北野 大 共立出版
--

成績評価方法・基準

集団調査学習における参加の程度(10%)講義受講姿勢(30%)学習到達度を確認するための試験(60%)による総合評価により成績を決定する。
--

履修上の留意点

環境問題は現在でも様々な説が存在し、正解が何であるのかわからない分野も多い。本講義では、ある特定の学説に沿って講義を行わず、できるだけ様々な考え方を紹介するものとする。 <事前学習・事後学習> 事前学習 : 次週の学習内容に関連する自然現象、特に気象変化とその原因についての調査。(2時間) 事後学習 : 授業で学習した内容の復習。(2時間) この講義で学んだことは、単位を取るための知識にとどめず、将来に於いて自らの環境とのかかわり方に役立てて欲しい。それが最も有効な本講義の 内容の学習法でもある。 <他科目との関連> 関連ある科目としてくらしの安全学がある。
--

担当教員へのアクセス

研究室: 1号館3階1301研究室 メールアドレス: ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

<オフィスアワー>

質問は1301で随時受け付ける。講義終了時に、質問で訪問する際の日程調整を申し出ることが望ましい。

(実務経験のある教員による授業)

企業内で研究開発時の危険物取扱の実務経験を活かし、人間の生存環境を理解する観点から講義を行う。

科目名	社会とくらしの安全学
職名／担当教員	人間学部 教授 恵原 貴志
曜日／時限	火曜日 4時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> 科学の発達とともに、今日の生活は利便性や安全性が向上しているがその反面、かつてはなかった危険も存在している。本講義では、科学の発達に伴って発生した人間のくらしの中の危険を検証し、それを回避、あるいは対処する方法について学習する。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ー ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ー ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ー [☆:関連するもの、ー:関連しないもの] <到達目標> くらしの中に存在する危険を科学的知識を根拠として認識し理解できる能力を習得する。 <授業形態> パワーポイント、板書を用いた講義形式で進めるが、新分野の講義に入る前に事前に学生のグループワークによる調査学習を行う。 <授業計画> 【対面科目】 (1) くらしにおける安全とは何か、危険とは何か (2) 水資源の量と質について (3) 水環境:地球上を循環する水が人間の生存にもたらす影響 (4) 飲料水の安全 (1)水質の判断基準 (5) 飲料水の安全 (2)浄水設備のしくみ (6) 調査学習:空気の安全に関する情報収集 (7) 空気の汚染:空気とはどのような気体か (8) 大気汚染の状況と経年変化 (9) 室内空気の汚染:室内空気の汚染とは何か (10)調査学習:食の安全に関する情報収集 (11)食の安全:食の安全のための法律、食品安全基準法 (12)食品添加物の種類と安全性 (13)調査学習:実際の食品に含まれる食品添加物の調査 (14)わが国の食糧事情の量的側面:食糧自給率とその種類 (15)授業内テストおよび総括 <アクティブラーニングの取入れ状況> 第10回および第13回の調査学習: (学外での受講学生各自による調査も含む) <課題に対するフィードバック> 調査学習の成果について評価を行い、講義の方向性を明確に理解してから講義に入る。
--

教科書／参考書

<教科書・参考書等> 教科書:「人間・環境・安全 ーくらしの安全科学ー」及川紀久雄、北野 大 共立出版 参考書:「くらしの豆知識」消費生活年報」など、国民生活センターが出版している各種出版物
--

成績評価方法・基準

くらしの安全に関する基本的な知識の習得について、グループ学習における参加の程度(10%)講義受講姿勢(30%)学習到達度を確保するための試験(60%)による総合評価により成績を決定する。

履修上の留意点

科目の性質上、事前に断ったうえで、厳密には正確ではない、かなり近似されたデータを用いて説明を行うことがあるので注意して欲しい。 <事前学習・事後学習> 事前学習: 次回の授業の対象となる部分の教科書などを用いた予習。(2時間) 事後学習: 授業内容の復習と、学習事項の日常生活での確認。(2時間) <他科目との関連> 本科目の内容をより深く理解するためには、化学の基礎的な知識にふれておくことが望ましい。

担当教員へのアクセス

研究室: 1号館3階1301研究室
メールアドレス: ehara@isenshu-u.ac.jp

その他

<オフィスアワー> 質問は1301で随時受け付ける。講義終了時に、質問で訪問する際の日程調整を申し出ることが望ましい。
--

(実務経験のある教員による授業)

企業内で研究開発時の危険物取扱の実務経験を活かし、暮らしの中で危険を避ける観点から講義を行う。

科目名	小学校の外国語活動
職名／担当教員	人間学部 教授 根本 泉
曜日／時限	水曜日 5時限
期 間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> この授業では、小学校の「外国語活動」について、英語教育を実践するための知識や技術の習得を目標とする。また、ALTとの連携も視野に入れ、そこで必要とされる英語運用能力を涵養をする。具体的には、小学校中学年の児童が英語に慣れ親しみ、「聞くこと」、「話すこと」を中心に活動ができるように、絵本・歌・ゲーム等を含む教材の内容および授業の指導法についての研究を行う。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:－ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> ・児童が、「聞くこと」、「話すこと」を中心に英語に慣れ親しむための、教材や教授法についての知識を身につけている。 ・小学校での「外国語活動」の授業およびALTとの連携に必要なとされる、基礎的な英語運用能力を身につけている。 [授業の方法] <授業形態> 基本的には、演習形式による授業であるが、一部講義も取り入れる。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 授業の最後に質疑応答の時間を設ける。 <授業計画> 【対面科目】 (1) ガイダンス、Unit 1. ALT's First Visit to Minami Elementary School (2) Unit 2. Getting to Know Each Other (3) Unit 3. School Lunch (4) Unit 4. Play Time (5) Unit 5. The First English Class (6) Unit 6-7. Teaching Numbers 1, 2 (7) Unit 8. Reflection (8) Unit 9. Activities at a Kindergarten (9) Unit 10. Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle (10) Unit 11. Making Onigiri and Curry (11) Unit 12. Making a Town Map (12) Unit 13. Introducing Japanese Culture (13) Unit 14. Evacuation Drills (14) Unit 15. Graduation (15)授業内テスト及び総括 <課題に対するフィードバック方法> 演習における発表時に、その都度、コメントを与える。
--

教科書／参考書

<教科書>: 相羽千州子、他著『Hello, English—English for Teachers of Children—こどもに教える先生のための英語—会話から授業まで—』(成美堂) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』(開隆堂) 授業では、適宜、プリント等も配布する。 <参考書>: なし

成績評価方法・基準

<評価方法> (1)試験・テストについて 学期末試験を実施。 (2)試験以外の評価方法 授業への積極的な参加および中間レポートによる評価。 (3)成績の配分・評価基準等 授業への積極的な参加(20%)、中間レポート(40%)、および学期末試験(40%)を総合して評価する。

履修上の留意点

<事前学習・事後学習> 事前学習: 次の講義で扱うUnitを予め予習しておくこと。(120分) 事後学習: 疑問点について調べ、授業のポイントを整理しておくこと。(120分) <他科目との関連> 小学校高学年の教科「外国語」の教育内容を学ぶ科目である「外国語」と関連する科目である。

担当教員へのアクセス

研究室:3号館1階 3117
メールアドレス:nemoto@isenshu-u.ac.jp

その他

<オフィスアワー>

3号館1階の3117研究室で、随時対応する。事前にメールで予約するのが望ましい。

(実務経験のある教員による授業)

教育現場における実務経験活かし、小・中・高等学校における英語教育の連携を視野に、小学生の発達段階に沿った言語習得という観点から授業を行う。

科目名	教育総合英語Ⅱ
職名／担当教員	人間学部 教授 根本 泉
曜日／時限	木曜日 2時限
期 間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単 位	2

講義内容

<授業概要> この授業は、英語に関する専門科目として、聞く・話す・読む・書くという英語の総合的能力との関連において、英文読解力を養うこと目標とする。授業は演習形式で実施するが、授業の前半では、様々なジャンルの英文を語彙や発音、あるいは文法事項にも留意しつつ丹念に読解することで、書き手の意図やその内容を精確に読み取る力を養い、また後半では、ペアで会話文を読む、英文テキストの内容についてグループでディスカッションを行うなどの実践演習をとおして、英文読解力のさらなる向上に努める。本授業では、これらの課題演習をとおして、職業生活・社会生活で必要とされる、英文読解力に基礎を置いた英語コミュニケーション能力の涵養を図る。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:－ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:－ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:－ [☆:関連するもの、－:関連しないもの] <到達目標> 様々なジャンルの英文を、辞書を用いて精確に読むことができ、かつ読んだ英文の内容について、英語でディスカッションをすることができる。 [授業の方法] <授業形態> テキストの講読による演習形式で進める。 <授業計画>(各回のリーディングのテーマを記す) 【対面科目】 (1) 授業ガイダンス、Olympic Cities (2) Internet Communities (3) Teleworking (4) E-books (5) Multiculturalism (6) Space Tourism (7) Volunteering (8) Shanghai (9) Climate Change (10) High-Speed Trains (11) Single-Child Families (12) India on the Rise (13) Trans Fat (14) Artificial Intelligence (15) 授業内試験および総括 <アクティブラーニングの取り入れ状況> ペアで会話文を読み、対話の練習を行う(ユニットごと)。 <課題に対するフィードバック方法> 課題の発表に対して、その都度コメントする。

教科書／参考書

<教科書>: Andrew E. Bennett著『Reading Pass 1 (Second Edition)』(南雲堂)
<参考書等>: 特に指定しない。

成績評価方法・基準

<評価方法> (1)試験・テストについて 学期末試験を実施。 (2)試験以外の評価方法 割り当てられた課題の発表および小テストによる評価。 (3)成績の配分・評価基準等 割り当てられた課題の発表(20%)、小テスト(30%)、学期末の筆記試験(50%)により、総合的に評価する。
--

履修上の留意点

<事前学習・事後学習> 事前学習: 予習として、教科書の各ユニットの英文を、辞書を用いて精読し、練習問題を解いておくこと。(120分) 事後学習: 疑問点を調べ、授業のポイントを整理しておくこと。(120分) <他科目との関連> 「教育総合英語」と同様に英語教職科目の下支えの科目であり、主として英語コミュニケーション能力を涵養する科目と関連する。
--

担当教員へのアクセス

研究室: 3号館1階 3117
メールアドレス: nemoto@isenshu-u.ac.jp

その他

<オフィスアワー>

3号館1階の3117研究室で、随時対応する。事前にメールで予約するのが望ましい。

(実務経験のある教員による授業)

教育現場における実務経験を活かし、学生自身の英語の精確な読解力を涵養すると共に生徒へのリーディングの指導力を涵養する、という観点から講義を行う。